

神苑

神苑の決意

本号の内容

【主張】天皇陛下 即位を内外に宣明す 激甚災害の只中での即位 悲哀を共にする帝と民の国でありたい(木川智)：1／【連載】アジア放浪記―歴史を掘り起こし日本を見る―31―ラオス編②(仲村之菊)：3／花瑛塾九月・十月活動報告：5／【記録沖縄戦】⑥軍民・日米それぞれの視点から(沖縄戦史研究会「棒兵隊」)：15／お知らせ・編集後記：24

1部 1000円  
(別途送料160円)

# 天皇陛下 即位を内外に宣明す

## 激甚災害の只中での即位 悲哀を共にする帝と民の国でありたい

神苑の決意 主筆 木川 智

【主張】 十月二十二日、皇居の宮殿「松の間」において、天皇陛下が即位を国内外に宣明する「即位礼正殿の儀」がおこなわれた。

儀式では、参列した安倍晋三総理大臣ら三権の長やチャールズ英皇太子など一九一の国や機関から王族、元首、使節が見守る中で、天皇陛下と皇后陛下が高御座と御帳台の上に立たれ、天皇陛下が「おことば」を述べられた。

「正殿の儀」に先立ち、天皇陛下は即位の礼について天照大神に奉告する「賢所大前の儀」などの宮中

祭祀にも臨まれた他、「正殿の儀」の後、即位を祝う祝宴である「饗宴の儀」がおこなわれた。

■ 天皇陛下の「おことば」について

「正殿の儀」における天皇陛下の「おことば」は、およそ「上皇陛下が御在位のあいだ、国民の幸せと世界の平和を願い、国民と苦楽を共にし、その御心を御自身のお姿でお示しになってきたことに思いを致し、国民の幸せと世界の平和を常に願い、国民に

寄り添い、憲法にのっとり、日本国と国民統合の象徴としての務めを果たすことを誓う」というものであった。

天皇陛下の「おことば」は、平成二年の即位礼正殿の儀における上皇陛下の「おことば」をおおむね踏襲しながらも、「象徴としての務め」を追及された上皇陛下のお姿に一步踏み込んで言及しつつ、それをしっかりと継承し、憲法に基づいて上皇陛下の「象徴の旅」を引き継ぐ強い決意があらわれており、簡潔ながらも大変よい「おことば」であったと思う。